

かつらぎ町橋梁長寿命化修繕計画

◎背景・目的

かつらぎ町が管理する橋梁は、平成28年度現在で366橋（15m以上：64橋、15m未満：302橋）架設されています。

このうち、架橋後50年を経過する橋梁は、全体の7%を占めており、20年後には、22%程度に増加することになります。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、従来の「悪くなってから対策をとる」という対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大となることが懸念されます。

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、「損傷が小さい時から計画的に補修する」という予防保全型の維持管理手法に転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要があります。

また、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となります。

そこで、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るため、橋梁長寿命化修繕計画を策定しました。

◎ 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

町 道		合 計
全管理橋梁数	366	366
うち計画対象橋梁数	366	366
	うちこれまでの計画策定橋梁数	64
	うち平成28年度計画策定橋梁数	302
長寿命化修繕計画の対象：全管理橋梁		

◎ 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検（概略点検）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。定期点検は基本的に5年に一度実施する。

- 2) 日常的な維持管理に関する基本的方針
パトロール車による走行面の変状点検を行う。

◎ 本計画による修繕内容

平成24年に策定した計画に基づき、損傷した橋梁の修繕、橋の架け替えなど計画的に順次実施します。

《修繕が必要な主な損傷の例》

銅材の腐食



コンクリートの剥離・鉄筋露出



コンクリートのひび割れ



支承の機能障害



◎ 長寿命化修繕計画による効果

- 計画的かつ予防的な修繕を行うことにより、維持更新費用を縮減できます。
- 年度ごとの維持更新費用を平準化することができます。
- 損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保されます。
- 長寿命化修繕計画を策定する64橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型では101億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型は9億円となり、コスト削減効果は92億円となります。